



埼玉県立浦和西高等学校
Urawanishi High School

発行日 平成29年3月1日
学校通信 ～西高は今～
発行責任者 校長 高野 能弘

HP <http://www.urawanishi-h.spec.ed.jp>

西高も卒業の時期を迎え、別れとそして新しい年の出会いの予感で心がざわめきます。

卒業旅行（その1）

校長 高野 能弘

昨年11月15日に図書館で「読書会」に参加しました。テキストは角田光代『卒業旅行』で生徒・保護者、教職員で同じ本を読み感想を語り合う企画でした。皆さんの感想を伺い、様々なとらえ方があり、新鮮に感じるとともに生徒のみずみずしい感性を垣間見ることができてとても楽しいひとときでした。

私の高校の卒業旅行はやや変則的でした。それは金沢への旅行でした。しかも大学受験で金沢大学を訪れた時に卒業旅行を兼ねるというものでした。父が日本国有鉄道【国鉄・こくてつ】（今のJRの前身）に勤務をしていて、私も電車に乗るのが好きでした。そこで往路は特急「白山（はくさん）」に乗ることにしました。確か、5時間以上大宮駅から金沢駅までかかったのを覚えています。車窓からの景色を楽しみながらも受験科目の「世界史B」の参考書を読み続け、到着してホテルで鼻血を出してしまった記憶があります。

信越線から直江津駅経由で北陸本線に入り金沢駅に到着、荷物がたくさんあったので駅からホテルまでタクシーに乗り、ホテルに到着。フロントで「ご予約がありません。」の一言。焦ってメモを取り出すと、ホテルの名前を間違えて別のホテルへ行ってしまいました。なにか自分の中でまずい雰囲気になりながらも気を取り直して、予約のホテルへ。金沢の中心の片町、香林坊の近く、犀川（さいがわ）のほとりのホテルでした。ホテルでは受験科目の勉強をしすぎて（悪あがき）、のぼせてまた鼻血が。

火照った体を覚ますかのように、ホテルから受験会場の金沢大学へ徒歩で向かいました。当時の金沢大学は、金沢城の中にキャンパスがあり、石川門をくぐって構内へいき、受験会場を下調べしてみました。お城の中のキャンパスを見て興奮、テンションが上がったのを覚えています。

その後、お隣の日本三大庭園の一つの兼六園（けんろくえん）で雪つりの木々を見たり、有

名な徽軫灯籠【ことじとうろう・足が二股になっていて、琴の糸を支える琴柱（ことじ）に似ているのでその名が付いたと言われている】を眺めたりしました。金沢市内が一望でき、浅野川も確かめることができました。近くの茶屋で「甘酒」をいただき、添えられていた生姜が味を引き立て、心を落ち着かせてくれたのを覚えています。



その後、香林坊で一人食事。旅行情報誌を見て、甘海老（あまえび）なるものを食そうと企てていたのもので、小料理屋に飛び込み、隣の酔っ払いにからかわれながらご飯をお替りして夕食を済ませました。

試験当日は朝から雪で、試験開始が遅れた記憶があります。ホテルに頼んでおいた「合格弁当」を受け取り、会場へ。1日目は5科目の試験で、数学では高校の実力試験で出題された積分の回転体の体積を求める問題が全く同じ数値で出題され、大いに興奮しました。生徒の皆さんも受けた試験はおさらいをするよといと思います。

試験が終わり、暮れなずむ金沢城を後にし、ホテルに戻り、疲労で風呂にも入れず爆睡し、明け方に起床。試験2日目に備えました。

試験2日目は実技、800m走、砲丸投げ、ハードル走、器械体操、手だけのロープクライミングなどのテストを受けました。体育館内の80mトラック10周の800m走は初めての体験で驚きました。また雪の中での砲丸投げは、ラインは赤く、ピットはカーペットが敷かれる雪国ならではの？の実技テストでした。何もかも新鮮で楽しかったのを覚えています。

受験がすべて終わり、午後10時過ぎに金沢を後にし、車中の人となりました。復路は「能登」に乗りたかったので満足の夜行旅でした。大雪で列車には大宮に到着してもたくさんの雪が着いた車体を上野に見送りました。

3月の中旬に「ホクリクジニサクラサク」の電報が自宅に届きました。今では信じられないと思いますが、当時の大学受験では可否を大学生が見て、結果を電報するといったアルバイトがあり、それを利用して合格を知ったのでした。

訳あって、金沢大学への進学は叶いませんでしたが、楽しい「卒業旅行」でした。

卒業旅行（その2）

大学卒業の迫った3月、20日以上スキー場に籠っていました。家庭教師のアルバイト料をすべてつぎ込み、スキー三昧の日々でした。親からは「放蕩息子」と呆れられ、長野県の戸隠スキー場の民宿に文字通り、連泊していました。民宿を手伝ったり、アルバイトの大学生と野沢菜でビールを飲んだり、勝手気ままにスキーを楽しんでいました。

滞り途中で、ゲレンデをコースアウトし、雪に埋もれた切り株に足を取られ転倒、左脛にぱっかりと傷が開き、慌てて長野市内の外科で3針を縫ってもらい、そのまま戸隠にUターン。脛に段ボールを当てて、スキーウェアを着て更にスキーを続けました。

大学卒業が決まり、4月から埼玉県の高등학교で保健体育科の教員として就職することが決まっていた。大学3・4年と大学院に進み、大学で研究をと考えましたが、小学校教諭をしていた母から「頼むから仕事についてくれ、私は自分がプールに入れなくなったら教員を辞めるから」と懇願され、そのようにしました。

かすかなモヤモヤ感、新しい世界への期待と若干の不安などが頭をよぎる中、スキーをし、戸隠の瑠璃山（めのうさん1,917 m）から西の彼方に見える北アルプスの山々を晴天の中、眺め、感動しました。兎に角、自分自身の時間を独り占めし、堪能しました。



学生時代は何かの劣等感に包まれていたかもしれませんが、「もう自分を否定するのはおしまいでしょう。」「スポーツ（もしかしたら自分の人生）の出来栄で自分に劣等感を持つのはやめよう。」「これが卒業旅行から得た自分の結論、答えだったかもしれませんが。それから明るい社会人生活が今も続いています。

戸隠を後にする日、民宿のみんなに見送られ、お土産の飴色の野沢菜をカバンに入れて、バス停から長野駅に向かいました。いまでも覚えているのが駅構内で食べた掛け蕎麦。美味かった。あれ以上の蕎麦には出会っていないかもしれません。

そう、「卒業旅行」は学生時代の節目節目にいままでの自分と新しくスタートする自分に「ケリをつける旅行」だと思います。一人旅の「卒業旅行」、魅力的です。

「一人卒業旅行のススメ」です。

1 西高づくり懇話会(2/18)

18日の土曜日の午後、学校評議員、評価懇話会委員、生徒会の生徒の皆様に参加をいただき、学校評価懇話会を行いました。

学校自己評価システムシートを中心に、本年度の本校の取り組みについて貴重なご意見をいただきました。

来年度に向けて、貴重なご意見を生かすとともに今回のことをまとめて、後日、本年度の学校自己評価システムシートをHPに掲載させていただきます。

